

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会 報告書



日時 平成 30 年 11 月 6 日（火） 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

場所 布礼別集落センター

参加者数 27人

市長	北 猛俊
副市長	石井 隆
総務部長	稲葉 武則
市民生活部長	山下 俊明
保健福祉部長	若杉 勝博
経済部長	後藤 正紀
教育部長	亀淵 雅彦
ぶどう果樹研究所長	川上 勝義
都市施設課長	棟本 直樹
企画振興課長	西野 成紀
財政課主幹	高田 敦子

【市長 開会のあいさつ】

今年は春から異常気象となり 30 度を超える炎天が続いた後、雨が多くなりました。本日は、布礼別、八幡丘、富丘などの地域からお集まりいただきました。鉄路や市庁舎建て替えについて説明させていただきました。地域で抱える課題についてもご意見をいただき、まちづくりにつなげていきたいと思っております。

1. 鉄路のあり方

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○富良野は滝川、新得、旭川の3路線の中心にあるため、富良野市の負担は他の市町村より大きくなるのではないかと。また、自分はJRに乗っていない。布礼別や八幡丘の住民は駅が遠いので、車で移動する。利便性の問題もある。</p> <p>○JR貨物は年間9万トン運んでいるが、JR北海道はJR貨物からの利用料収入はないのか。</p> <p>○滝川線は農産物を輸送しているので維持してほしい。特に、滝川―富良野間は、農産物の輸送があるので必要だと思うが、富良野市だけの問題ではなく、芦別や赤平等とも議論すべきではないかと。市町村ごとの思いによっても負担する額が変わってくると思うが、現時点で分かっていることがあれば教えてほしい。</p>	<p>○それぞれが乗れるような目的をつくることも必要だと思いますので、協議会で検討させていただきます。</p> <p>○JR貨物は、JR北海道に鉄道利用料を年間17億円～20億円を支払っています。そのうち、根室線の滝川―富良野間の収入は、1億1,500万円です。JR北海道は、貨物の分に占める鉄道使用料は年間500万円程度と説明しています。</p> <p>○根室本線対策協議会では、各市町村の事務方が月に1回集まって論議をしていますが、基本的には維持存続することを前提にしています。JRは3月までに具体的な事業計画（アクションプラン）を作るよう国から求められていますので、根室本線対策協議会のなかでも、どのような具体的な事業計画になるのか、利用促進と経費節減を図っていくのかということについて協議していきます。負担の具体的な方針は、現段階では分かっていません。</p>

2. 防災体制について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○マルシェの前の日下石油は災害時中核給油所</p>	<p>○市と石油協同組合で、平成25年3月に災害時</p>

<p>の指定を受けている。実際に、停電の翌日、ローリーを1台分依頼して、直ぐに給油してもらった。コンビニの輸送車や医療関係の車両が緊急車両となっていて、指定のシールを付けた車両に優先的に給油をすることになっている。しかし、ガソリンスタンドと各自治体、市役所、自衛隊との取り決めではなく、富良野地方石油協同組合と各自治体、役所、警察が協定を結ぶ形になっている。実際には、何をしても良いのか分からなく、組合に問い合わせても分からなかった。大きな災害がなければ良いが、停電が真冬だと、さらに大変なことになっていた。そうした協定の運用について、石油協同組合と市側で具体的なことを決めてほしい。スタンドでの災害時対応は、基本的には一般車両の給油をお断りして、緊急車両のみに給油する。今回は、札幌でも一般のお客さんを断って、緊急車両が来るのを待っていたと聞いている。具体的なことが分からないと、どのくらい一般車両に給油を回せるのか分からない。</p> <p>○災害時の避難周知の言葉が分かりづらい。「急いで避難してください」など、分かりやすい表現でお願いしたい。</p>	<p>における石油類協定を結んでいます。詳細については、内容を確認させていただきますが、今回の停電のなかでは、市の公用車も緊急車両ということで、一般車両に対して給油制限をかけて、市の公用車への給油を優先していただきました。改めて協定の内容について、石油協同組合と確認したいと思います。</p> <p>○避難周知については、分かりやすい言葉を使うように気を付けていきたいと思います。</p>
---	--

3. 地域課題など

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○今年の春先、市道にグレーダーをかけくれたが、どうしても水たまりができるので、あと2～3回かけてほしい。</p> <p>○道道の通学路改修の件で、西富岡停留所から東富丘停留所までの間に歩道がない。最近、目立つ看板ができたが、その看板の近くのガードレールに車の衝突事故があり、見通しが悪い場所。10月に測量していたが、市からも早急な工事を要望してほしい。</p>	<p>○春先は全線グレーダーをかけています。最近では、早い時期に災害が発生しています。夏から秋ころにかけて、集中豪雨などもあります。ひどくなった道路は直接、都市施設課に連絡をいただければ、現地確認のうえ対応させていただきます。</p> <p>○道道の通学路については、早く歩道を設置するよう、市としても北海道に要望書を出しているところです。平成30年度についても、歩道の早期完成という要望をしています。</p>

- 道道のハートヒルパークの件で、市の除雪がハートヒルパークまで来て、一度、戻って行ってしまう。後から上がってきて東山方面まで除雪される。地域としては、できるだけ早く除雪をしてほしい。草刈りや道路沿いの枝剪定もハートヒルパークまでになっている。片側だけでも良いので東山まで除雪車が走って通してほしい。
- 道路に牧草が散乱して危ないことがあり、開発に話をして撤去してもらった。ある酪農家では、尿を運搬する際に道路に散らかることがある。業者が道路に飛散した堆肥を片付けていることもある。二輪車や自動車の事故につながる。積み荷はシートをかけて搬送するなどして、飛散防止をするのが原則ではないか。市として注意喚起をしてほしい。
- 市民農園、キャンプ場があった鳥沼公園の向かい側、八幡丘から上がる場所の3カ所に小便器が置いてある。何のために置いてあるのか。
- 布礼別の墓地は3m×3mが原則だと聞いた。最近墓石を直す人が多く、通路が2カ所あるが、通路が狭くなっている。布礼別の墓地には駐車場がないので、できれば駐車場の整備をお願いしたい。
- 旭川の千代ヶ丘では、空き家を行政に寄付していると聞いた。その取り組みについて、研究してほしい。
- 集落センターと住宅の間に、水路（U字溝）を整備した。業者は草は生えないと言っていたが、台風で柵の上の砂利が流れた。草も生えてしまう。
- 小学校まで光回線を引いてくれたが、東部地域全体の整備は考えていないのか。
- ハートヒルパーク前後の除雪方法については、北海道と確認して対応したいと思います。
- 農産物、家畜糞尿の適正管理については、運搬も含まれます。道路に散乱することは不適切だと思いますので、農協などを通じて道路への飛散防止の注意喚起をしたいと思います。
- 便器の関係は、鳥沼地域でも問題視しています。連合町内会からも撤去の申し入れをしています。改めて連合町内会や地域の方々に確認して対応していきたいと思います。
- 墓地の関係は、担当係でも把握しています。今後の課題ということで承っております。
- 布礼別の空き家は、所有者を確認し連絡先も分かりましたが、まだ連絡はとれていません。市全体の空き家については、空き家調査を平成30年度に実施しています。市全体の空き家状況を把握してデータベース化します。空き家の所有者を調査し、意向調査をしながら、空き家の管理を所有者に依頼したいと思います。
- 草が生えないと言ったのは、石灰質の砂利をいれると草が生えにくくなるので、そのことだと思いますが、絶対に生えないということはありません。現地を確認させていただきたいと思います。
- 平成29年度、総務省の補助事業で1億6,600万円をかけて農村地域の公共施設と学校施設

を対象に 41.3km の光回線敷設をしました。この整備により、一般家庭で光回線が利用できるのは光回線付近の住宅で、電柱 3 スパン分の範囲までの 475 世帯が、新たに加入できるようになりました。そのうち、加入をしているのは 1 割程度です。その他の未整備地域に光回線を整備すると 10 億 4,400 万円かかると試算しています。N T T としては、加入率が 1 割程度だと費用対効果がないと言っています。また、N T T は、2023 年 1 月末に光回線のある地域の ADSL は廃止するとしています。しかし、光回線が未整備の地域については、まだ示されていません。今後、携帯電話は、大手 3 社が 2020 年から「5 G」のサービスを展開しようとしています。今までは、都心部から整備が進んできましたが、11 月 2 日に総務省が発表した資料によると、地方部のニーズの多い場所からの整備も検討されています。N T T に光回線の整備について問い合わせたところ、地域としてある程度まとまった契約世帯があれば、光回線の整備について費用対効果を調査し、整備を検討することは可能といわれています。

○布礼別や鳥沼の小学生は増えることはないと思うが、少人数学級について、教育環境をどのように考えているか。また、スクールバスに、大人も乗ることはできないのか。

○小人数の学校では部活なども限られます。現時点では、昨年 11 月、市内小中学校の適正規模適正配置の指針を策定しました。この指針を策定する半年前から、各学校の P T A のみなさんとも情報共有して、意見交換をしてきました。そのなかでは、同年代の子ども同士が触れ合うことによって、心の成長がよりよく育まれるということもあり、ある程度の規模の学校で育つことが必要だとの見解がだされました。特に思春期の中学生は必要だとの意見をいただきました。布礼別小学校においても、5 年後には児童数が 10 人を切ると見込まれます。今から他の学校と一緒にすることも含めて検討してはどうかということ、コミュニティースクールの取り組みのなかで、地域と保護者が子どもたちの未来と教育について、一緒になって考えて意見交換をしながら、合意形成をしていきたいと考えています。布礼別中学校が東中学校と一緒にするとき、布礼別小学校は残すとの決断もありましたので、そうした経過も踏まえながら議論に加わっていただきたいと思います。

【市長 閉会のあいさつ】

大きな課題の2点について、熱心に聞いていただきお礼を申し上げます。まだまだ言い足りないこともあると思いますが、JRの存廃については、この後、再編計画の協議に入っていきますが、そのなかで負担の話やJRの経営努力はどこまでされるのか、市として市民のみなさんと協力をしながら、駅舎のバリアフリーなどの支援ができるのかを進めていくことになります。

庁舎の関係では、検討委員会を2回と、ワーキンググループの部会の話し合いも進めていますが、庁舎は単なる建物ではありません。まちづくりを推進していくためには、市民のみなさんに参加をいただく必要もあります。そうした市民参加の場所も同時につくり、その手法を用いながら庁舎の中身を検討していきたいと思います。どういう庁舎であれば足を運べるのか、意見を述べやすいのか、そうしたことへのご意見もいただきたいと思います。

今後の社会情勢は、人口減少と少子化の時代ですが、これをそのまま受け止めていくのではなく、解決するために行政がどういう施策を執れるのか、市民のみなさんにも効果的な施策について、ご意見をいただきたいと思います。

本日の地域懇談会で終わりではなく、市長室トークや出前トークを通じて、みなさんのご意見をいただきたいと思います。また、生活に関連した意見もありました。住んでいる方々の生活が良くなる、幸せを感じられる環境をつくるために、みなさんと一緒に協力しながらすすめていきたいと思います。本日は、長時間にわたってご協力いただき、お礼を申し上げます。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
40-49 歳	男性	・ 鉄路の維持、新庁舎について、市の考えどおりに実行してほしい。その中で負担を少なくする模索は続けてほしい。
40-49 歳	男性	・ 川の管理（草が伸びて土砂が堆積し流れが悪くなっている）。 ・ ワインぶどうの助成金が今年から上がり3年が目途だが、これからも続けてほしい。面積を増やしたのであれば説明会等を開いてもらうことが検討してほしい。
50-59 歳	男性	・ インターネット環境の改善、拡充を望む。特に光回線の普及。
60-69 歳	男性	・ 新庁舎については必要なものなので進めてほしい。 ・ 鉄路は今現在の利用がほとんどないので市の考えで良いと思う。
60-69 歳	男性	・ 図書館を祝日開いてほしい。